

国語科学習指導案

日 時 2005年12月8日(木) 第3教時
児 童 第3学年 23名
指導者 教諭

1. 単元名「五 心の通い合いを読もう」

2. 教材名「おにたのぼうし」

3. 教材の目標

読 場面の移り変わりをとらえながら読み、情景や人物の気持ちを想像する。

評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○目あてにそっておにたや女の子の様子や気持ちを、積極的に考えようとしている。	○場面の様子を比べて読み、共通点や相違点に気付く。	○表現したり理解したりするために必要な語句を増していき、辞書を使って調べたりできる。

4. 教材について

「おにたのぼうし」は、文学教材単独の「読むこと」、単元「心の通い合いを読もう」に含まれている。

本教材では、人間世界の年中行事となっている節分の夜が舞台となっている。主人公である、気のいい小さな黒おにの子ども「おにた」は、はじめ、「まこと君」の家の物おき小屋の天じょうに住んでいたが、豆まきを嫌ってその家をあとにする。鬼に対する人間の固定観念に、「人間っておかしいな。おには悪いって決めているんだから。おににも、いろいろあるのにな。」と一人つぶやきながら、カサツとも音をたてないで物おき小屋を出て行く「おにた」に寂しさやもどかしさを感じさせる。そして、ようやく豆のにおいもしない、ひいらぎもかざっていない「女の子」の家にとどり着く。そこで「おにた」が見たのは、おなかをすかせながらも、病気の母を一生懸命に看病する「女の子」の姿であった。その様子にいても立ってもいられなくなった「おにた」は、本来の優しさを発揮して、節分のごちそうを届けるのであった。この時、用心深い「おにた」は、人間の前に姿を現すことは初めてであったろうと思われるが、「にこっと」笑ってくれた「女の子」に、つかの間の安堵感と幸福感を味わったことだろう。しかし、次の瞬間、「女の子」の口から、「だって、おにが来れば、きっと、お母さんの病気が悪くなるわ。」というとび上がるほどの言葉を聞き、絶望感に苛まれる場面の描写がある。「おにだって、いろいろあるのに。おにだって……。」という限りない切なさを抱えながら、「おにた」は「氷がとけたように」急にいなくなる。後に残された「あの麦わらぼうし」と、まだあったかい「黒い豆」に、児童は初発の読みで、課題意識を持つだろう。

「おにたのぼうし」は、フィクションの世界ではあるが、現実の子どもの生活の中にも、このような善意のすれ違いや、お互いに理解し合えない悲しさは存在する。それだけに、この時期の子どもたちは、「おにた」や他の登場人物などに、多様に複雑な思いを寄せるに違いない。人の立場や気持ちについていろいろ考えながら成長していくこの時期の子どもたちに、こうした作品と出会わせることは、人間形成の上からも望ましいことである。

本学年の児童は、個々の私語も目立つ時もあるが、落ち着いて取り組むことができる。また、比較的簡単な発問に対してはほとんどの子が挙手して答えることが出来るが、読み取りや聞き取りの力の差が大きいため、少々難しい発問になると、挙手する人数は減ってしまう傾向にある。授業中の音読については4月から取り入れてきたが、大きな声で自信を持って堂々と読める子が少ない。しかし、全員で音

読をする際には、大きな声で読めるようになってきている。この教材でも音読を多く取り入れ、叙述に即していいいな読みができるようにさせていきたい。また、前回の物語単元である「わすれられないおくりもの」から、自分たちで課題を考え、解決に向けてみんなで考えていくという活動を実施した。その単元では、登場人物の行動に疑問に感じたところを課題として扱ったことで、一人ひとりが課題を解決しようと、教材の細かいところまでよく読めるようになってきた。今回もその課題づくりを行い、前回よりもレベルアップをはかるため、主人公である「おにた」の気持ちについてを課題のテーマとし、「おにた」の気持ちをより深くつかませたいと思っている。

この「おにたのぼうし」という教材では、課題づくりから課題解決する達成感や成就感を味わわせ、より丁寧に人物の様子や気持ちを読み取る力を育てていきたい。

5. 指導計画（12時間）

時間	ねらい・学習活動	学習活動における評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「心の通い合いを読もう」という単元扉を読み、単元名や扉に書かれた言葉をもとに、本単元の学習の見通しをもつ。 ○「おにたのぼうし」という題名について話し合う。 ○全文を読み、初発の感想を書く。 	関 単元全体の見通しをもったり、物語の題名に興味をもって、すすんで学習に参加しようとしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字の学習と、意味のわからない語句を調べる。 	言 新出漢字の学習と、意味のわからない語句を調べている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○再度全文を読み、自分たちで解決したい課題をつくる。 	関 本文をすすんで音読し、その中から自分で考えていきたい課題を見つけ出し、ノートに書き出すことができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○（一）の場面を読み、おにたがどんな鬼かを読み取り、物おき小屋を出て行くおにたの気持ちを考える。 	読 おにたがどんな鬼かを読み取り、物おき小屋を出て行くおにたの気持ちを考えることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○（二）の場面を読み、おにたの様子を読み取り、女の子の家に入り込む時のおにたの気持ちを考える。 	読 おにたの様子を読み取り、女の子の家に入り込む時のおにたの気持ちを考えることができる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○（三）の場面を読み、女の子とお母さんの様子を読み取り、夢中で寒い外へとび出していったおにたの気持ちを考える。 	読 女の子とお母さんの様子を読み取り、夢中で寒い外へとび出していったおにたの気持ちを考えることができる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ○（四）の場面を読み、ごちそうを目の前にした女の子の様子を読み取り、にこっとわらった女の子を見たときのおにたの気持ちを考える。 	読 ごちそうを目の前にした女の子の様子を読み取り、にこっとわらった女の子を見たときのおにたの気持ちを考えることができる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ○（五）の場面を読み、女の子の言葉を聞いて、麦わらぼうしと黒い豆をのこしていなくなったおにたの気持ちを考える。 	読 女の子の言葉を聞いて、麦わらぼうしと黒い豆をのこしていなくなったおにたの気持ちを考えることができる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ○（六）の場面を読み、女の子が豆まきする様子を読み取り、この場にはいないおにたの気持ちを考える。 	読 女の子が豆まきする様子を読み取り、この場にはいないおにたの気持ちを考えることができる。

10	○氷がとけるようにいなくなったおにたに対する手紙を書く。	関 おにたに対する自分の気持ちを知らせる手紙を書いている。
11	○書いた手紙を読み返して、おにたに対する気持ちがはっきりと書かれているか確かめ、手紙を発表し合う。	関 自分の手紙を発表し、友だちの手紙と自分の手紙を比べながら聞くことができる。
12	○教科書79ページの例文とその説明を読み、本文中に出てきた心の動きを表す言葉を使って、例文を作成する。 ○本文以外にも心の動きを表す言葉を見つけ出して発表し合う。	関 心の動きを表している言葉に興味を持ち、すすんで探したり、その言葉が表している心の動きを想像したりしている。 言 言葉の中には、体の動きを通して、心の動きを表すものがあることを理解している。

6. 本時について (8 / 12)

(1) 本時の目標

読 (五)の場面を読み、女の子の言葉を聞いて、麦わらぼうしと黒い豆をのこしていなくなったおにたの気持ちを考える。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師の関わり・支援	留意点・評価
見 つ め る	○学習の振り返りをする。 ○本時の学習の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">麦わらぼうしと黒い豆をのこしていなくなったおにたの気持ちを考えよう。</div> ○(五)の場面を音読する。 ・一斉読み ・一文読み	・前時までの学習を振り返らせる。 ・本時の学習の課題を確認させる。 ・一文読みの時、適切な声の大きさと読めるよう支援する。	・課題を確認できたか。
追 求 す る	○女の子が考えこんでいる場面から、おにたの様子を読み取る。 ・「どうしたの？」 ・おにたが心配になってきくと、って書いてある ○その次に、女の子が言った言葉を読み取る。 ・「もう、みんな、豆まきすんだかな、と思ったの。」 ○女の子が「あたしも、豆まき、したいなあ。」と言った時の、おにたの様子を読み取る。 ・「なんだって？」 ・おにたはとび上がりました。 ・びっくりした ○「おにが来れば、お母さんの病気が悪く	・おにたの驚いた様子を感じさせる。 ・おにたの落胆する様子を感じ	読 文章の中からおにたや女の子の様子などがわかる文章を見つけ、おにたの気持ちを考えている。 (観察・発表)

<p>追 求 す る</p>	<p>なるわ。」と言われた時のおにたの様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手をだらんと下げて ・ふるふるっと、悲しそうに身ぶるいして <p>○おにたのせりふである「おにだって、いろいろあるのに。おにだって……。」と言った後に続く言葉をワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おには悪いやつばかりじゃないんだよ。」 ・「ぼくは何もしないよ。」 ・「ぼくはお母さんの病気を悪くしたりしないよ。」 ・「せっかくなかまになれるかと思ったのに、豆まきしたいなんていわないでくれよ。」 <p>○氷がとけたように、急におにたがいなくなったときの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がっかりした。」 ・「すごい悲しかったと思う。」 ・「さびしくなった。」 ・「消えちゃいたいくらいだと思う。」 	<p>じさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書けないでいる子へ支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力を要する状況の児童には、直前にあったおにたの様子に着目させ、「ぼくは、…」に続ける文を書くよう支援する。
<p>深 め る</p>	<p>○おにたが残していったものを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麦わらぼうしと黒い豆 <p>○おにたが麦わらぼうしを残していなくなったのはなぜかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わすれていった。」 ・「もういらなくなった。」 ・「角かくしのぼうしと前に書いてあるから、もう隠さなくてもよくなった。」 <p>○黒い豆をのこしていなくなったのはなぜかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おにたは女の子の豆まきしたいというねがいをかなえてあげた。」 ・「おにたは気のいいおにだから、女の子が豆まきしたいといていたのをやらせてあげた。」 ・「すごく悲しかったけど、おにたは女の子に豆をのこしていったところはやさしいと思う。」 <p>○本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして麦わらぼうしを残していなくなったのか、これまでのおにたの行動に注目させ、考えさせる。 ・ どうして黒い豆をのこしていったのか、これまでのおにたの行動に注目させ、考えさせる。 ・ これまでの読み取りを生かし、子どもたちの中から出てきた言葉を使って振り返りをする。 ・ 次時の予告をする。 	<p>読 文章の中からおにたの様子が見つけ、おにたの気持ちを想像している。</p> <p>(観察・発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 努力を要する状況の児童へはこれまでの学習を振り返りながら考えるように支援する。

(3) 本時の評価

読 (五)の場面を読み、女の子の言葉を聞いて、麦わらぼうしと黒い豆をのこしていなくなったおにたの気持ちを考えることができたか。